

東北応援ツアーレポート

田中 悟 昭和56年卒業 理工学部

現地を訪問して思うこと 宮城県コース

3年ぶりの東北復興支援である。6年前の3.11は私はまだ現役の教員であり、ちょうど卒業式が終わり、次の年度の学年を編成するための学年会を行っていた時である。グラグラと不気味な揺れが起こり、揺れが収まり、「なにごとか？」と会議を中断して1階の校長室のテレビを見に、下に降りた。そこで我々の目に飛び込んできたのは仙台空港の映像であった。津波に襲われ1台の車が流されそうになっている。「これは大変なことが起きている。誰もがそう思った。

今回の東北応援では、いろいろな皆さんにお世話になった。本当に感謝です。

今回のツアーで、特に印象に残っているのは、当時、南三陸を破壊した大津波の様子と志津川高校で働いておられた岸先生のお話と、「閑上の記憶」である。閑上の記憶では自分の父親を亡くされた若い保育士さんのお話を聞かせていただき胸が締め付けられました。「閑上の記憶」では、オリジナルの資料映像が入ったDVDを購入させて頂いた。私の息子は岐阜県で教員に今年採用された。息子を通して、岐阜県の中学生にもこの映像を見てほしいと願う。そして、いつまでもこの日本に住む私たちの責務として、このことをいつまでも忘れずにいなければならないと思います。